足羽川ダム建設事業の検証に係る検討
報告書(素案)の骨子

本書は足羽川ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）の骨子をとりまとめたものです。

検討内容の詳細については、近畿地方整備局ホームページより報告書（素案）をご確認ください。

[足羽川ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）の掲載アドレス]

http://www.kkr.mlit.go.jp/river/kensyou/kaigisiryou.html

平成 24 年 2 月

国土交通省近畿地方整備局

※ 本骨子において、「足羽川ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」を「報告書（素案）」と記載しております。

１．検討経緯

ここでは、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に示された検討手順や、これまでの検討経緯について記述しています。

詳細については、「報告書（素案）」P1-1～1-4 を参照してください。

２．流域及び河川の概要について

ここでは、流域の地形・地質等の特徴、九頭竜川における治水・利水の歴史・現状、現行の治水計画・利水計画等について記述しています。

詳細については、「報告書（素案）」P2-1～2-42 を参照してください。

３．検証対象ダムの概要

ここでは、足羽川ダムの目的、事業の経緯、事業の現在の進捗状況について記述しております。

詳細については、「報告書（素案）」P3-1～3-10 を参照してください。

４．足羽川ダム検証に係る検討の内容

ここでは、足羽川ダム建設事業について点検を行い、事業の目的である洪水調節について足羽川ダムを含む対策案と足羽川ダムを含まない対策案を検討した上で、洪水調節の目的別の総合評価を行った後、目的別の検討を踏まえて、足羽川ダム建設事業に関する総合的な評価を行っています。

4.1 検証対象ダム事業等の点検

・足羽川ダム建設事業の総事業費、堆砂計画、工期や計画の前提となっているデータ等について詳細に点検を行いました。
・検証に用いる残事業費は、約 841 億円となりました。
・工期については、工事着手から試験湛水の終了までに 13 年程度を要するという点検結果を得ています。
・現行計画における堆砂計画について点検を行い、妥当であるとの結果を得ています。
・今回の足羽川ダム建設事業の検証に係る検討は、点検の結果、必要な修正を反映した雨量及び流量データを用いて実施しています。
・詳細については、「報告書（素案）」P4-1～4-7 を参照してください。

4.2～4.4 洪水調節の観点からの検討

・河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本とし、九頭竜川流域における戦後最大規模の洪水を安全に流下させることとして目標流量を設定しました。

・足羽川ダムを含む治水対策案の立案にあたっては、九頭竜川水系河川整備計画を基本として検討を行いました。
・一方、河川整備計画の目標流量に対して、足羽川ダムを含まない治水対策案について28 案を立案し、これらの治水対策案を 4 グループに分類したうえで概略評価により 6 案を抽出しました。これに足羽川ダムを含む治水対策案を加えた 7 つの治水対策案について、7 つの評価軸ごとに評価を行いました。
・詳細については、「報告書（素案）」P4-8～4-87 を参照してください。

4.5 目的別の総合評価（洪水調節）

・4.2～4.4 に示した 7 つの治水対策案の評価軸ごとの評価結果を踏まえ、目的別の総合評価（案）（洪水調節）を行った結果を以下に示します。

1)一定の「安全度」（河川整備計画の目標流量[天神橋地点]1,800m^3/s）を確保することを基本とすれば、「コスト」について最も有利な案は「ダム案」である。

2)「時間的な観点から見た実現性」として、10 年後に完全に効果を発現している案はなく、20 年後に足羽川ダムの効果量に相当する効果を発現していると想定される案は、「ダム案」、「堤防かさ上げ案」、「既設 5 ダム活用案」、「既設 2 ダム活用案」である。

3)「持続性」、「柔軟性」、「地域社会への影響」、「環境への影響」の評価軸については、1)、2）の評価を覆すほどの要素はないと考えられるため、「コスト」を最も重視することとし、洪水調節において最も有利な案は「ダム案」である。

・詳細については、「報告書（素案）」P4-88～4-92 を参照してください。

4.6 検証対象ダムの総合的な評価

・検証対象ダムの総合的な評価を以下に示します。

1　洪水調節の目的について、目的別の総合評価を行った結果、最も有利な案は「ダム案」である。

2　足羽川ダムは、洪水調節のみを目的とする洪水調節専用（流水型）ダムであることから、目的別の総合評価結果を踏まえ、総合的な評価の結果とする。

3　これらを踏まえると、総合的な評価の結果として、最も有利な案は「ダム案」である。

・詳細については、「報告書（素案）」P4-93 を参照してください。

５．費用対効果の検討

足羽川ダム建設事業の費用対効果分析について、洪水調節は、「治水経済調査マニュアル（案）」に基づき最新データを用いて検討を行った結果、足羽川ダム建設事業の費用対効果（B/C）は 1.3 という結果を得ています。

詳細については、「報告書（素案）」P5-1～5-4 を参照してください。

６．関係者の意見等

ここでは、「足羽川ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」や幹事会の開催状況や、平成 24 年 1 月 11 日に開催した第 1 回検討の場及び第 4 回幹事会において、検討主体が示した内容に対する構成員の見解について記載しております。

また、第３回幹事会を実施した段階で行ったパブリックコメントの結果について記載しております。

詳細については、「報告書（素案）」の P6-1～6-22 を参照してください。

なお、学識経験を有する者、関係住民、関係地方公共団体の長からの意見聴取及びパブリックコメントについては、それぞれ実施後にその結果等について記述する予定です。

７．対応方針（案）

今後、対応方針の原案を作成し、事業評価監視委員会の意見を聴き、対応方針（案）を記述する予定です。